

研究だより

入新井第五小学校

研究推進委員会

R6年6月 日 ()

第 2 号

学校・学級に適応プロジェクト

3年 学級活動 「人による感じ方の違い」

◎授業について

6月7日(金)第2回となる校内での研究授業を行いました。題材は、「人による感じ方の違い」です。3年生の今の発達段階では、「相手が嫌がることはやってはいけない。」「いじめはいけないこと。」という意識はなんとなくもっていますが、実際には気持ちのすれ違いからトラブルが起きないわけではありません。この、活動範囲が広がったり友達とのかかわり方が変化し、集団で行動することが多くなる時期に、友達と友好的な関係を築くためには、相手の気持ちを考えたり、事象についての感じ方に違いがあることに



気付いたりすることが必要不可欠だと考えました。そこで、人によって感じ方が違うことを知る活動を通して、これから自分はどう行動すべきかを意思決定し、粘り強く実践していく態度を育みたいと考えて本時の授業を行いました。

【導入(課題の把握)】今回はボール当てをしている場面を掲示して、登場人物の気持ちを考えました。また、登場人物の表情を変えたり、外見だけでなく内面のようすを考えたりする活動を通して、一つの場面を多角的に捉えることができるようにしました。これにより、児童が本時の課題を自分事として考えるきっかけになりました。

【展開(原因の追究)】遊び以外の日常に見られそうな場面を選択して絵に表し、「簡単だよ。」「これあげる。」という言葉で掲示して考えました。児童は、この一言を言われてどう感じるかをたくさん発言しました。これにより、同じ言葉を言われても人によって感じ方が全く異なることを感じ取ることができました。また、感じ方が違う人たちがみんなで生活しているからこそ、すれ違いが起きることもあると感じることができました。

【展開(課題解決等の話し合い)】人によって感じ方が違うことを理解した上で、友達となかよく過ごすために取り組めることを小集団で話し合っただけで考えました。「自分が言われて嬉しい言葉を使う。」「相手が傷付く行動をしないように気を付ける。」など、多くの意見が出ました。班で話し合ったことを全体で共有することで、様々な考えに触れ、思考を広げることができました。

【終末(個人目標の意志決定)】話し合った内容を踏まえて、自分のめあてを考え、カードに記入しました。「相手の意見を聞くことも大切。そして自分の意見をしっかりと言うことも大事。」「優しい言葉を遣っていく。」など、学習を生かして、自分のめあてを考えることができました。

☆指導・講評

○資料づくりがとてもよかった。今回のように作成したものは、学校の宝として今後も引き継いでいくとよい。



▲アンケートを活用せず場面絵にしたことで、児童が本時の課題をどこまで自分事として捉えることができたのか気になる。さぐる、つかむの段階で、自分の生活を振り返る場面を設定するとよい。

・本時では、児童がたくさん取り組むことを書いていた。取り組むことが多いと大変になる。そのため、優先順位を付けて取り組んだり、できたものに花丸を付けたり、また、できたかできていないか分かる目標を設定させることで、児童の意欲を保ちながら実践させていくことが大切である。